

奈良県修学旅行コンセプトブック

～ 学習指導者の皆さまへ ～

新・学習指導要領に則した奈良県修学旅行学習のために
事前学習 現地学習 事後学習 の各プロセスで
生徒の皆さまの自主的で主体的な学習活動をサポートする
『奈良県修学旅行ワークブック』ご活用ガイド



© NARA pref.

奈良県

プリンターの設定を、A4サイズ(サイズに合わせる)、左開き、両面印刷でプリントアウトし、左側(上・中・下)をホッチキスで止めてください。

日本の源流を知り、今を考え、 未来を見つめる学びの旅へ！

～ 奈良で“日本の歴史を学ぶ”意義について ～

例えば、明治時代、近代国家を目指した政府は、欧米列強との対等な国交のために、欧米へ使節団を送り、西洋化を推し進めるとともに、当時のドイツの憲法を手本に、天皇を主権とした立憲君主制の政治を行いました。

*

それは、飛鳥時代後期から奈良時代、緊迫した東アジア情勢の中、律令の完成、『日本書紀』編纂とともに、遣唐使を派遣し、唐・長安を手本とした都を造営、天皇を中心とした中央集権国家体制の国づくりに似ています。

*

昭和時代の初めには、開国以来の西洋化によって、日本人が独自の文化の良さを忘れ、次第に心の拠り所を失いかけていることを憂い、文人・芸術家たちが、日本古来の文化を見つめ直そうと活動した場所も奈良の地でした。

*

温故知新(先人の知恵に学び、今を生きる)という言葉がありますが、国難が続いたり、国運がかかった岐路に立たされた時に、日本人は、「奈良」に回帰し、アイデンティティを立て直そうとしてきたのではないのでしょうか。

*

「奈良」を知れば、「日本」がわかる。さあ、歴史の現場へ！未来の日本の担い手として社会で活躍されるであろう生徒の皆さんに、昨今の日本が抱える様々な問題や課題に対して、事象を客観的に捉え、自分の考えをしっかりと持つ大人へ。そして、「日本」を愛し、生まれ育った郷土の歴史・文化に誇りを持つ大人に成長していただきたいと願っています。

奈良県修学旅行のテーマ

「日本誕生」

The Birth of JAPAN

「奈良」を知れば、「日本」がわかる。さあ、歴史の現場へ！

奈良での学びのポイント

奈良は、日本の歴史・文化の原点。その“かたち”と“こころ”を体験・体感できることが、奈良の一番の魅力です。

日本の国づくりは、奈良ではじまった！

日本の国のはじまりから成立まで。古代日本の歴史を大きく動かした、教科書にも登場する人物ゆかりの現場へタイムトリップ！

本物を体感できるのは、奈良だけ！

飛鳥時代から奈良時代にかけて建立・造立された木造建築や仏像の数々。1300年守り受け継がれてきた日本のたからものを体感！

古くて、新しい。最新の学習スポット！

キトラ古墳壁画体験館 四神の館、平城宮跡歴史公園、再建された興福寺中金堂、よみがえった薬師寺東塔など、新しい奈良を！

バラエティに富んだ、体験プログラム！

写経・座禅、能・狂言・雅楽、墨・筆・陶芸、柿の葉ずし、鹿の生態観察、林業体験など。奈良の風物詩「鹿寄せ」「なら燈花会」の体験も！

子どもたち“自らのアクション”を促すために。

「資質・能力を育成する3つの柱」(何を学ぶか)と、
「能動的な3つの学びの視点:アクティブ・ラーニング」(どのように学ぶか)は、
文部科学省が求める『生きる力』を育むための教育指針。

上記の要点を言い換えれば、

自分で課題を見つけ、まず自分でよく考える。さらに周囲の意見にも耳を傾け、
自分の考えを広げ・深めることで客観的に判断し、自分なりの答えを導き出す。

その能力と姿勢、行動力を育むことであると捉えます。

(参考資料) 文部科学省『生きる力～学びの、その先へ。新しい学習指導要領』/
政府広報オンライン『2020年度、子供の学びが進化します！新しい学習指導要領、スタート!』から

*

また、新・学習指導要領に盛り込まれたESD(持続可能な開発のための教育)では、
以下の3つの「学び方・教え方」の実践を目指しています。

関心・理解・参加を通じて「具体的な行動」を促す。
知識に加え「体験・体感させる」参加型アプローチ。
活動の場で学習者の「自発的な行動」を引き出す。

その基本的な考え方のうち、「世界遺産や地域の文化財等に関する学習」「環境学習」や
初等中等教育が目指している「文化の伝承(文化の不易流行を学ぶ)」における
「伝統文化に関する学習」は、奈良県が最も得意とする分野です。
そして、文化遺産に関する教育は、「平和に関する教育」に繋がるものと考えます。

(参考資料) 文部科学省『ESD(Education for Sustainable Development)』/
教育新聞社『ESD～新しい教育のキーワードを語る』(2008年1月1日記事)から

『奈良県修学旅行ワークブック』を活用した 修学旅行学習の進め方

事前学習

情報を収集し、自分でよく考え
学習課題を設定し、
自分なりの仮説を立てる。

そのエリアで何を学ぶのか 学びの基本情報 を『奈良県修学旅行ガイドブック』を参考に調べ、疑問に思ったこと、現地で確かめてみたいことを書き出し、自分で考え、自分なりの答えを用意しておきましょう。
例) 平城京エリアでは、なぜ、この地に都がつくられたのか。奈良時代とは、どんな時代だったのか。東大寺の「大仏」は、何のために造られたのかなど。

現地学習

自分の仮説を検証するとともに
現地を訪れて知った
新発見や感動を記録する。

現地を訪ね、『奈良県修学旅行ガイドブック』を参考に、用意した答えを確かめてみましょう。参加した「体験プログラム」で気づいたことや、本物を体感してわかった新しい発見や感動を記録しておきましょう。
例) 平城京エリアでは、奈良時代の平城宮を体感する。当時の天皇・貴族の暮らし、役人の仕事を学ぶ。東大寺の「大仏」の大きさを体感するなど。

事後学習

持ち帰った学習記録を共有し、
クラスで議論することで
自分なりの答えを導き出す。

学習記録をまとめ、クラスで発表しましょう。他のグループの意見にも耳を傾け、話し合うことで、自分の答えをまとめ直してみましょう。さらに、自分たちの郷土の歴史・文化の価値についても調べてみましょう。
例) 奈良で学んだ日本の歴史・文化の源流が郷土にも息づいていることや、地域で守られているお寺・神社の仏像・宝物、伝統行事を調べてみるなど。

班別行動での奈良県修学旅行学習のために、学習プロセスに沿って効率的・効果的に学習過程を記録するワークシートをご提供します。(PDF版/PowerPoint版の2種)

【事前学習(5時間)】(授業の1時間は、50分を想定)

1時間目(情報収集)

『奈良県修学旅行ガイドブック』を参考に、奈良はどこにあるのか。奈良で何が学べるのか。現地を訪れる価値など、奈良についての下調べを分担して行いましょう。

2時間目(主題設定)

『奈良県修学旅行ガイドブック』を参考に、分担して下調べした内容について話し合い、班の学びの旅のテーマを設定しましょう。

3時間目(課題設定)

『奈良県修学旅行ガイドブック』を参考に、疑問に思ったことや、現地で確かめたいことなどを話し合い、班の学習課題を設定するとともに、答えの仮説を立ててみましょう。

4時間目(旅先決定)

『奈良県修学旅行ガイドブック』を参考に、学習課題の解決のために、どの学習エリアをめぐれば良いか、また、何を体験したいかなどを話し合い、訪問地を決めましょう。

5時間目(行動計画)

『奈良県修学旅行ガイドブック』を参考に、どのように旅程を組めば良いか班で話し合いましょう。また、効率の良い班行動のために現地での役割分担を決めておきましょう。

【現地学習(2泊3日)】

現地では、学習課題の解決のために班で協力して活動し、答えの仮説を確かめるとともに、体験プログラムを通して気づいたこと、現地を訪れて初めて知った発見や感動などを記録しておきましょう。

【事後学習(2時間)】

1時間目(記録整理)

持ち帰った学習記録をそれぞれまとめ、学習課題の答えについて班で話し合いましょう。そして、奈良で学んだことを班でまとめ、資料を用意し、発表に向けて準備しましょう。

2時間目(成果発表)

設定した学びの旅のテーマと理由 / 設定した学習課題と理由 / 学習課題の解決のために行った現地での活動計画と実際の行動 / 学習課題に対する答え / 現地を訪れて初めて知った発見や感動などについて、班の学習成果を発表しましょう。また、他の班の意見にも耳を傾け、議論し、班の学習成果について客観的に考えてみましょう。さらに、奈良で学んだことをきっかけに、郷土の歴史・文化についても調べ、その価値や魅力について再認識してみましょう。

『奈良県修学旅行ガイドブック』の編集では、 以下の6つの項目を意識しています。

奈良で学ぶ「興味」や「関心」 何を入口にするのか

各エリアの導入部では、キーマンとなる歴史上の人物が古代の日本へと誘います。本編の 学びの基本情報 は、人物にスポットをあてた物語で解説します。

「考えてみる」きっかけづくり “気づき”をどう促すのか

学びの旅のテーマ では、そのエリアで「何を学ぶのか」、現地で学ぼう！感じよう！ では、現地で「どう学べばよいのか」を分かりやすくガイドします。

「知る」喜びと「考える」楽しさ その広げ方と深め方

さらに、深く知ること視野を広げ、なるほど！と納得して理解できるように、奈良に関する雑学コラム もっと知る なら！ を掲載。現地での学習を楽しめます。

「対話(交流)」を通しての発見 何を体験していただくか

歴史・文化体験、ものづくり体験、食の体験、環境学習など、奈良ならではの 体験プログラム一覧 を掲載。人気のプログラムは巻頭でスポットをあてます。

自分なりの「答え」を導き出す どうアシストするのか

現地で学ぼう！感じよう！ では、現地で「どう学べばよいのか」その着眼点を示唆するとともに、生徒の皆さまの自主的で主体的な学習行動を促します。

学びを身につけ、次に繋げる 学習プロセスのフォロー

旅の予習だけでなく、現地学習ツールとして役立ち、さらに、奈良で学んだことが郷土の歴史・文化への理解を深めることに繋がる事後学習ツールにも。



日本の国のはじまりの地・飛鳥から、奈良時代の都・平城京へ。 古代日本の宮都の変遷をたどる編集の流れに。

巻頭見開きでは、最新の奈良学習スポット 人気の奈良体験プログラム をご案内。本編は、飛鳥・藤原京エリア/ 法隆寺エリア/ 平城京エリア/ 吉野山エリア/ 山の辺の道エリア、長谷・室生エリアの順に進行します。

各エリア導入部では、学びの旅のテーマ 主な学習スポットとモデルコース をご案内。本編は、学びの基本情報(物語) 現地で学ぼう! 感じよう! もっと知るなら! おすすめ! 体験スポット で構成。特集 特集 では、“学習に役立つ豆知識”をご提供します。

編集コンセプトと構成について / 目次

古くて、新しい。最新の奈良学習スポット! / バリエティに富んだ、奈良体験プログラム!

飛鳥・藤原京エリア(奈良県中部)

法隆寺エリア(奈良県西部)

特集 仏像入門(体験スポット:奈良国立博物館「なら仏像館」)

平城京エリア(奈良公園周辺、ならまち・高畑、平城宮跡歴史公園、西ノ京・西大寺)

特集 登場人物が生きた時代年表 / 登場人物たちの系譜(天皇家・蘇我氏・藤原氏)

吉野山エリア(奈良県南部)

山の辺の道エリア、長谷・室生エリア(奈良県東部) / 主な学習施設一覧

主な体験プログラム一覧 歴史・文化体験、ものづくり体験、食の体験、環境学習など

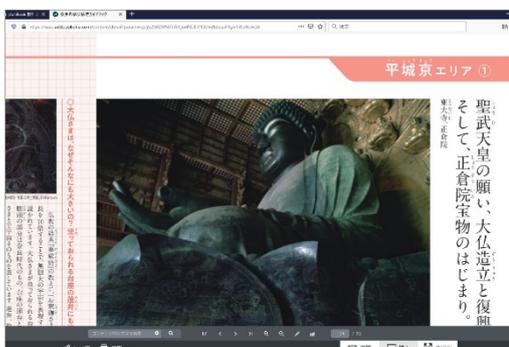
2泊3日でのモデルコース / 奈良県全体マップ / 主な学習エリアマップ

貸切バスでの移動時間目安 / 奈良県へのアクセスと鉄道利用での移動時間目安

アクティブ・ラーニングを支援するデジタルブックの配信

パソコンを使ったりリモート授業や現地での班別行動でタブレット端末を用いたグループ学習など、ICT教育現場で役立ち、「**アクティブ・ラーニング: 能動的な3つの学びの視点(主体的・対話的で深い学び)**」を支援するデジタルブックを配信。ID登録・パスワード入力もいらず、フリーでご利用いただけます。

自主的で主体的な学習行動をサポートする様々な機能、**部分拡大/付箋機能/検索機能/ペンツール**など。『奈良県修学旅行ワークブック』との併用により、**事前学習 現地学習 事後学習**の各プロセスでお役立てください。



部分拡大機能



ActiBook One
スターティアラボ株式会社の製品です。



検索機能(例えば東大寺で検索すると掲載頁を表示します)



付箋機能(メモを挿入できます)



ペンツール(アンダーラインを引いたり、印をつけたりできます)

プリントアウト(単頁・見開きのどちらも可能です)

古代日本の宮都の変遷をたどるモデルコース

奈良県修学旅行のテーマ「The Birth of JAPAN(日本誕生)」を体感していただく、ガイドブック編集の流れに沿った2泊3日の周遊ルートをご案内しています。

東京・九州方面から新幹線で新大阪へ。新大阪から飛鳥・藤原京エリアまで貸切バスで約1時間30分。飛鳥・藤原京エリアから平城京エリアへは、近鉄電車が便利です。

国のはじまりの地・飛鳥、日本初の都城「藤原京」、奈良時代の都「平城京」へ。そして、世界に誇る法隆寺の木造建築・仏教美術を見学、時間が許せば、桜の名所・吉野山へも。ぜひ、古代日本の宮都の変遷をたどる学習旅行をご計画ください。

